

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 145 2013.9.8 連絡先 402-1622 >

9月議会が始まります

日 程 (案)

9日より、右の日程(案)で9月定例市議会が開かれます。補正予算、条例改正、市道認定や契約などの議案が上程される予定です。内容の審議は各常任委員会で行われます。日本共産党は、住民の立場で、暮らしにとって利益となるものには賛成、不利益をもたらすものには反対を貫いてまいります。

月・日・曜		
9・9・月	本会議	議案説明
10・火	休会	
11・水	本会議	一般質問
12・木	"	"
13・金	"	"
17・火	"	"
18・水	"	"、質疑、委員会付託
19・木	常任委員会	
20・金	"	
24・火	"	
25・水	(特別委員会)	
26・木	"	
27・金	休会	
30・土	本会議	委員長報告、討論、採決

汗も・・・。
ラジオをFM87.7に合わせれば聞こえます。11日(水)16時からと、再放送が15日(日)21時からです。恥ずかしいけど、ぜひお聞きください。



みち子のひとりごと ラジオにでます

前が出てこなくて慌てたり。冷や汗も・・・。
収録前に、MCの宇和さんと軽く打ち合わせをし、後は流れのままに話がすすみます。今回は、高知へ行って学習した「憲法」の話から、孫の話まで、硬軟とりまぜて話させていただきました。突然の質問にすぐに答えられなかったり、人の名前が出てこなくて慌てたり。冷や汗も・・・。

バナナFMという和歌山市を拠点にしているFM放送局が塩屋にあります。そこには「市議会通信」という番組があり、毎週市議会議員が1人ずつ出演して、それぞれの思いや抱負などを語っています。
先日、収録をしてきました。実は議員になった最初の年から毎年出ており、今回で3回目です。

生活保護基準引き下げが8月1日実施、 「不服申し立て」の取り組み始まる

和歌山市の標準3人世帯(33才男、29才女、4才子)で、一般生活費の月額が、147,570円から140,920円へと、6,650円、4.5%引き下げられました。今後3年間かけて最大10%の引き下げとなる見込みです。その上に、障害者加算、母子加算、期末一時扶助費なども引き下げられており、保護世帯からは生活できないとの声が上がっています。

「行政不服審査請求」の取り組みはどうすればできる？

生活費の引き下げを知った日から60日以内に、県知事に請求人の住所・氏名と審査請求する理由などを書いた書面を提出します。請求は委任状があれば代理人でもできます。市内では「あざみの会(424-6300)」も受付窓口となり、弁護士を代理人に審査請求する取り組みが始まっています。



市社会保障推進協議会は市長に、保護基準の引き上げや市民生活に影響しないよう関連する施策の拡充を求める要望書を提出しました。

堀越二郎と零戦

「私は一瞬、自分がこの飛行機の設計者であることも忘れて『美しい!』と咽喉の奥で叫んでいた」(「零戦 その誕生と栄光の記録」) 1939年4月14日、零戦(正式名は「零式艦上戦闘機」)の試作第1号機が初飛行した時の感動を、設計主任だった堀越二郎は自著でこう記しています。

この「美しき戦闘機」の登場は、日本を外国の模倣しかできない航空後進国とみなしていた欧米諸国を驚かせただけでなく、太平洋戦争初期には空戦で米英の戦闘機を圧倒し、連合国軍の中に「無敵零戦」の神話が生まれるほどでした。零戦が初めて実戦投入されたのは、日中戦争下の40年8月でした。日本軍は漢口を拠点に、中国国民政府の臨時首都となっていた重慶を爆撃していましたが、当時の主力戦闘機の航続距離はそれに満たなかったため、爆撃機は護衛機を伴わないで飛行せざるをえませんでした。その結果、日本軍の爆撃機は連日、中国軍の戦闘機に2機、3機と撃墜されていました。

こうした中で待ち望まれたのが、当時では驚異的な航続距離と格闘性能を誇る零戦の実戦配備でした。40年9月13日、漢口基地から出撃した13機の零戦は、重慶上空で中国軍の戦闘機27機と空戦を行い、わずか30分で敵機全機を撃墜、日本軍の損失はゼロという戦果を上げます。

零戦に護衛された爆撃機はその後41年8月まで重慶への無差別爆撃をくり返し、2万人余りの死傷者が出たとされています。その多くは一般市民でした。

太平洋戦争初期には優位を誇っていた零戦でしたが、やがて米軍は零戦を上回る性能の新型機を投入。一方、日本軍は技量の高い搭乗員が次々と戦死し、次第に米軍戦闘機に歯が立たなくなっていました。そして、最後には爆弾を積んで敵艦に体当たりする特攻機とされて海の藻屑と消えていったのです。

堀越二郎は自著にこう記しています。

「飛行機とともに歩んだ私の人生において、最大の傷心事は神風特攻隊のことであった」(同)

(平和新聞2025号より)